

談話室

NHK アナウンサー
武内 陶子 さん
profile

愛媛県生まれ。神戸女学院大学卒業。平成3年にNHK入局。松山、大阪赴任を経て「NHK ニュースおはよう日本」,
「第54回 NHK 紅白歌合戦」総合司会を務める。04年に長女を出産。その後育休に入り、昨年3月に復帰。現在は「お元気ですか日本列島」「日本の、これから」に出演中。



—数学は好きでしたか。

実は高3まで理系だったのですが数字が苦手なんです。予算のニュースで5600億円を5600円と読んでも全然気がつかず、あとから訂正を入れたり…。おかげでデスクからは、数字に弱い“スージー”と呼ばれてました（笑）。

—数学の先生は印象に残っていますか。

数学の先生は皆さんすごく字がきれいで、黒板にたくさん数字と記号を書かれるというイメージがあります。

高校の先生は真摯な先生でした。ただ、三角関数でつまづいてからは授業について行けなくなって、本当につらかった。中学校では苦手な関数も何とか克服できたし、楽しい先生もいておもしろかったですね。

—数学はお仕事の役に立っていますか。

論理的に考えるところはやはり数学に学んでいるんでしょうか。私はニュースでも、結論に導くためにはその前段階をどういうふうに構築しようかと、日々すごく考えますので。

ノーベル物理学賞の小柴先生に番組でインタビューした時のこと。打ち合わせで数学の話になり、先生は大学時代に数学の試験問題を「設問が悪い!」とよく書き換えたっておっしゃるんですよ。「つまり、数学は面白い考え方や答えを導く

ための設問が重要なの」と。ちょっと目からウロコの考え方だったのですが、次に「だから君、ひとついい質問を頼むよ」って。…やられました（笑）
—番組「お元気ですか日本列島」について。

各地の話題やニュースを紹介していく番組です。午後2時過ぎの時間帯でお茶を飲みながら何となくテレビをつけてらっしゃる方が多いので「あっ、何かおもしろそう」と思ってもらうために一生懸命知恵を絞って頑張っています。

生放送ですが、番組が終わったあとに翌日分の試写をしたり、どういうふうに視聴者の方に提示しようかと練ったり。毎日10時半から打ち合わせをして2時の本番までほとんど休みなし。もう、わーっと準備する感じですね。番組では何気なくしゃべっているようでも、実はすごく設計しています（笑）。「それだと誤解されるんじゃないか」とか「わからないんじゃないか」とか、みんなと議論を戦わせながら一つのもを作り上げていく。日々その積み重ねです。

—準備と惹きつけは授業でも大切だと思います。

娘が今2歳なのですが、子育てを通して、これまで見ていなかったことが見えてきました。地域のお祭りに参加したりして、いろいろな方たちに出会うようになって。新しい考え方や価値観が見えてきて、そういう経験が日々の伝え方に大きく影響していることを最近すごく感じます。

先生方もいろんな経験を積むことが大切だと思います。今の子どもたちはずっと不況の中で育っていて、世の中の楽しい雰囲気を知らずにいますから、だからこそ先生方の豊かな経験を子どもたちにしっかり伝えてほしいと思います。大人が楽しそうに生きてないと子どもたちも楽しい世の中を感じられないし。

数学の先生も、キャラクターが立ったおもしろい先生がいてもいいですね。やっぱり親としては、子どもがお世話になる先生方には魅力的な先生でいてほしい。日々私も頑張ろうと思います。〔終了〕